

和歴	西暦	木村熊二年表
弘化2年	1845	但馬出石藩（兵庫県豊岡市）京都御池藩邸で出生 儒学者桜井一太郎（石門）の次男、生後に出石へ
嘉永1年	1848	
嘉永3年	1850	実父一太郎（石門）52才没
嘉永4年	1851	
嘉永5年	1852	叔父桜井三郎（石泉）を頼り江戸出府
嘉永6年	1853	叔父桜井三郎（石泉）46才没
安政1年	1854	木村近之助（琶山）の養子となり湯島聖堂に通学
安政2年	1855	昌平校にて安積良斎 中村敬宇 佐藤一斎から学ぶ
安政3年	1856	養父木村近之助（琶山）28才没
安政4年	1857	河田興（廸斎）塾生となり 田辺連舟から英語を学ぶ
安政5年	1858	昌平黌入学 聖堂寄宿人となる
安政6年	1859	河田興（廸斎）没
文久2年	1862	幕臣に取り立てられる。母栢没
元治1年	1864	武田耕雲斎の乱、長州征伐に出陣 勝海舟配下となる
慶応1年	1865	田口鏡子と結婚後も探索方として活動
慶応2年	1866	百表 五人扶持徒歩目付とし京阪を往復
慶応3年	1867	江戸帰還 下谷生駒前に居す、隣家に乙骨太郎乙

〈関連事項〉

田口鏡子・桜井家関係年表

鏡子出生、父耕三（井上氏）母まち、曾祖父佐藤一斎の命名

父田口（井上）耕三22才没

ペリー浦賀来航

〈日米和親条約〉

田口卯吉生まれる 父田口（西山）樾四郎、母田口まち

〈日米修好条約〉

父田口樾郎35才没 曾祖父藤一斎87才没

〈禁門の変〉

木村熊二と結婚

〈大政奉還〉

和歴	西暦	木村熊二年表
----	----	--------

関連事項

木村鏡子・田口家・桜井家関係年表

明治1年	1868	長男祐吉生まれる。彰義隊参戦後、横浜から静岡へ	〈戊辰戦争〉	鏡子。祐吉、祖母かつ母まち、異父弟卯吉と横浜へ転居
明治2年	1869	乙骨太郎乙、田口卯吉と共に沼津兵学校へ	〈版籍奉還〉	鏡子。田口一家と共に静岡へ
明治3年	1870	森有礼少弁務使一行に加わり渡米する		卯吉、沼津兵学校資業生。桜井勉（長兄）出石藩大参事。
明治4年	1871	ミシガン州ハーランドホープカレッジ校長ヘルプス家に 寄宿しグラマースクールへ入学、静岡県より学費支給	〈廃藩置県〉	桜井勉 松山県権参事
明治5年	1872	ハーランドホープ教会で洗礼を受ける	〈太陽暦採用〉	桜井勉 大蔵省出仕
明治6年	1873	文部省よりの帰朝命令拒否、以後私費留学生となる	〈地租改正〉	桜井勉 租税寮地理課長
明治7年	1874	ホープカレッジ予科終了	〈佐賀の乱〉	田口卯吉、大蔵省出仕 鏡子一家を東京水道端に呼ぶ
明治8年	1875	ホープカレッジグラマースクール入学		鏡子、牛込北山伏町へ転居 田口卯吉山岡千代と結婚
明治9年	1876	ホープカレッジ本科入学		
明治10年	1877		〈西南戦争〉	河田鎮62才没
明治11年	1878			桜井勉 地理局長
明治12年	1879	ホープカレッジ卒業 ラトガース大・ニューブランズウィク神学校入学		田口卯吉『東京経済雑誌』発行
明治13年	1880	ニューヨーク大学医科の奨学金生となる		祐吉共立学校入学
明治14年	1881	マスターオブアーツ学位取得		田口卯吉東京府議会議員当選 桜井勉内務大書記官
明治15年	1882	オランダ改革派ミッション派遣宣教師として帰国、 下谷初音町に家塾を開く	[日本銀行設立]	田口卯吉『日本開化小史』刊行 鏡子祐吉フルベッキより受洗
明治16年	1883	下谷教会牧師就任、第3回全国基督教信徒総会の演説に参加 群馬高崎を拠点に長野・上田・小諸への伝道活動に赴く		祐吉同志社英学校入学
明治17年	1884	旧約聖書翻訳事業 基督教青年会YMCA活動に参加	[秩父事件]	駒込西片町に新居移転
明治18年	1885	下谷教会辞任 明治女学校設立校長に就任、取締役木村鏡子		
明治19年	1886	鏡子コレラに罹患し急死、 学校経営を岩本善治に託す		木村鏡子死去 享年38歳
明治20年	1887	学習院・共立学校（後の開成中学）成立学舎で教鞭を執る		福井藩儒臣伊藤輔次女、花19歳と再婚

和暦 西暦

木村熊二年表

社会

関連事項

明治21年	1888	頌栄女学高校長、台町（高輪教会）牧師就任、芝白金に転居	明治学院生徒、島崎春樹・関友三に洗礼を受ける
明治22年	1889	日本基督一致教会と日本組合基督教会の合同問題	〈大日本帝国憲法発布〉
明治23年	1890	旧約聖書翻訳事業・YMCA活動から手を引き、頌栄女学校校長就任	
明治24年	1891	群馬から信州への伝導活動、小諸を訪れる	〈内村鑑三不敬事1 荒町関友三家の歓待に感謝、佐久移住の契機となる
明治25年	1892	台町教会を辞職、佐久移住を決意	早川権弥との知己を得て、佐久市前山に居を構える
明治26年	1893	小諸義塾開設（12月1日）	〈信越線全通〉 北佐久郡小諸町9 9 9番地寄留
明治27年	1894	瓦門校舎へ移転	〈日清戦争〉
明治28年	1895	花と離婚	
明治29年	1896	義塾校舎新築 東儀隆子（2 3歳）と再婚	福沢諭吉來諸
明治30年	1897	塩川伊一郎に桃の栽培を指導	
明治31年	1897	中棚鉦泉開発	島崎藤村 『若菜集』刊
明治32年	1899	島崎藤村赴任 長男祐吉死去	各学校令公布 私立学校・中学、実業学校・高等女学校
明治33年	1900	水明楼建築	内村鑑三『聖書の研究』刊
明治34年	1901	女子学習舎開校	理想団結成
明治35年	1902	教頭井出静死去	
明治36年	1903	小諸義塾創立10周年（有終館構想）	国定教科書使用開始
明治37年	1904		〈日露戦争〉
明治38年	1905	女子学習舎閉塾 島崎藤村辞任	田口卯吉死去 関友三死去
明治39年	1906	小諸義塾閉校 長野市日本基督教会长野講義所へ赴任	島崎藤村『破戒』刊行
明治40年	1907	横浜フェリス英和学校赴任（1年間）	小学校義務教育6年制
明治41年	1908	連合共進会で天幕伝導・クルセード開催	小諸幼稚園開園
明治42年	1909	長野を中心に伝導活動を行う	
明治43年	1910		
明治45年	1911		

和暦

西暦

木村熊二年表

社会

関連事項

大正1年	1912			
大正2年	1913		シーメンス事件	宗教局内務省から文部省に移管する
大正3年	1914	小諸図書館開設		
大正4年	1915	伝導局長野市から撤退により小諸に戻る		
大正5年	1916	女子学習舎同窓会 上田を拠点に単独で伝導活動を行う	第1次世界大戦	
大正6年	1917	牛込教会牧師就任 芝白金三光町276に転居		
大正7年	1918	浅間会発足 帰園と称して毎年夏季は水明楼を訪れる		浅間会（義塾卒業生により熊二への支援）
大正8年	1919	伝導局から年金支給（小野山嘉七郎の尽力による）		
大正9年	1920			この年も神津猛より育英金を贈られる
大正10年	1921	喜寿の祝い浅間会の主催で行う（島崎・三宅参加）		
大正11年	1922	夏軽井沢、星野にて内村鑑三と歓談		
大正12年	1923	9月1日震災当日小諸滞在中で難を逃れる	関東大震災	
大正15年	1926	9月の小諸訪問が最後となる		
昭和2年	1927	2月28日 自宅にて永眠 享年82歳 3月5日牛込教会にて葬送 谷中霊園に埋葬		7月24日「千曲川旅情の歌」歌碑除幕
昭和11年	1936	義塾卒業生により懐古園内に肖像レリーフパネルを設置		
昭和36年	1961	水明楼、木村家遺族から小諸市に寄贈される		
昭和53年	1978	3月「木村熊二没後50年展」荻窪清水画廊で開催 9月木村熊二没後50年記念事業「小諸の春」発表会（於）小諸市民会館		
平成5年	1993	第1回「蓮峰忌」小諸義塾の会により開催		
平成6年	1994	市立小諸義塾記念館開館		
令和6年	2024	「市立小諸義塾記念館」開館30年		
令和7年	2025	「木村熊二生誕」 180年		
令和9年	2027	「木村熊二歿後」 100年		